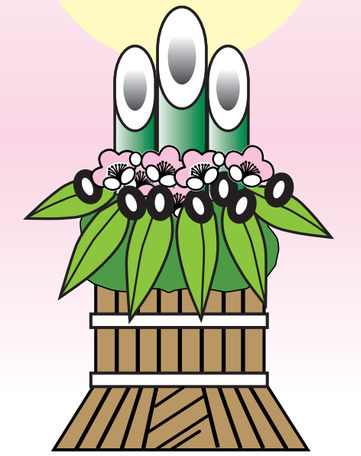
東京女子体育大学助教授
Erika Akiyama
秋山 エリカさん

A Conversation to the New Year

川井市長の新春対談



今年の新春対談は、新体操競技の世界的名選手として活躍され、現在は指導者と教育大学助教授として活躍中の東京女子体育大学助教授のエリカさんは、オリンピックの秋山エリカさんとご対談をさせていただくなどたびたび白石を訪れ、新体操競技の強化合宿などでお話を伺いました。

秋山さんから、新体操指導者としての立場から、新体操競技について、11月中旬に白石の印象や新体操競技についてお話しいただいました。

男女共同参画社会などについて、11月中旬に市長が東京出張した際に

美しい自然や人の優しさ・・・素晴らしい白石の個性を新体操や男女共同参画社会でも

秋山さんのプロフィール

１９６４年生まれ、福岡県出身。高校時代に器械体操から新体操に転向し、史上初の全日本選手権６連覇を達成したのをはじめ、ロサンゼルスおよびソウルオリンピックに出場するなど「新体操の女王」として一世を風びした。

９０年に現役を引退し、海外でのコーチ研修などを経て、後進の指導にあたる。シドニーオリンピックでは、個人主任コーチとして松永里絵子選手を支えた。

現在は、母校の東京女子体育大学助教授として教鞭を執り、後輩の指導にあたっているほか、ＪＯＣ（日本オリンピック委員会）で、アスリート委員会委員や女性とスポーツに関する諸問題を検討する「ＪＯＣ女性スポーツプロジェクト」班員を務めるなど多方面にわたり活躍している。

川井：本日はお忙しいところありがとうございます。この新春対談には、今まで女性の方の登場が少ないということと、８月に新体操の全日本学生選手権がホワイトキューブで開催される予定となっていることから、今年は秋山さんにお願いしたいと思っておりました。どうぞよろしくお願いします。

秋山：こちらこそよろしくお願いします。

美しい自然と温かい人情のまち白石

川井：秋山さんは、何回ぐらい白石においでになりましたか？

秋山：白石の方には、もう足かけ10年以上になりますか、数え切れないほど足を運ばせていただいております。

川井：白石の印象をお話しいただければと思うんですが。

秋山：まず自然の美しさといいますか、本当に水がいいですよね。水と自然と、空気もいいですし、やはりああいうところに住んでいるからなのか、出会う人一人一人が大変すばらしいお人柄で、白石でシドニーオリンピック前も合宿をさせていただきましたが、本当に集中できる環境と、いろんな人の温かさのおかげで大変いい合宿ができました。

自然はもちろん人のよさ、そして建物もすごくあか抜けているんですよね。人口そのものは余り多くないというふうに伺っておりますけれども、周りの建物が大変斬新で、城下町の風情も見せていただいたりと、やはり文化とか、景色に対して、すごく意識の高いまちなのではないかなと思っております。

川井：古いまちと新しい現代的な建築を融合させたいというのが白石市のまちづくりの理念です。その点を評価していただいて、ありがたいと思います。

▲シドニーオリンピックに向けた新体操日本代表チーム強化合宿
（2000年５月・ホワイトキューブ）

国際的な賞を受賞されるのもよくわかります

秋山：白石の建築物が認められて、国際的な賞を受賞されるそうで、おめでとうございます。

川井：デダロミノス国際建築スポンサー賞と申しまして、ホワイトキューブも受賞対象の一つに入っております。

秋山：すごいですね。ホワイトキューブは、とてもあか抜けた建物ですよね。美術館のような。

川井：そうですね。今度文化功労者になられた中村晋也先生が制作したブロンズ像も五体あるんですけれども。

秋山：はい、拝見させていただきました。

川井：イタリアに行くと、建物も彫刻も同質のものという感じがします。日本では何か全然別な感じですが。向こうの方では、「アーキテクト（建築家）」ではなくて、「デザイナー」というくくりで捉えています。一人の人が絵も描く、彫刻もやる、設計もやる、そういうことがデザイナーなんだということのようなんです。

今回の受賞も、まちづくりにそのデザイナーを使って統一性を持ちたいと思ったものですから、堀池秀人さんに都市プロデューサーをお願いしまして、その夢を表したんです。まちがそういうことで努力をしたと

▲シドニーオリンピック代表選手による模範演技会
（2000年５月・ホワイトキューブ）